

確かな学力の育成と地域密着型の教育の推進 －学びのすすめと心の教育、規範意識の醸成をめざして－



○教委名	加須市教育委員会
○所在地	加須市下三俣290
○TEL	0480-62-1111
○E-mail	gakko@city.kazo.lg.jp
○URL	http://www.city.kazo.lg.jp/

1 研究主題

- (1) 「確かな学力の育成と地域密着型の教育の推進
－「学びのすすめ」「心の教育」の充実、「規範意識」の醸成をめざして－
- (2) 現状

子どもたちの学力の向上、規範意識や道徳心の育成、体力の向上などが、全国的に課題となっている。本市の子どもたちにおいても、全国学力・学習状況調査や、埼玉県小・中学校学習状況調査の結果を見ると、思考力、判断力、表現力、学習意欲、家庭における学習習慣等に課題が見られる。そのため、各学校においては、基礎的・基本的な内容の定着を図ること、問題解決的な学習を取り入れ、思考力の育成を図ること、言語活動をとおして判断力や表現力を育成すること等、学習指導の工夫改善に取り組んでいる。

さらに、少子化・核家族化が進む中で、子どもたちが他の人と適切に関わる態度や能力の低下が懸念されることから、教育活動全体を通じた道徳教育や、家庭や地域、関係機関等と連携・協働した体験活動等を通して、多くの人たちと関わることの大切さを実感できる地域密着型の教育を推進し、倫理観や規範意識、社会性の育成に取り組んでいる。

2 研究の実践

- (1) 全市を挙げた組織的な学力向上への取組
(加須市教育課程検討委員会での学力向上策の検討)
市内の小学校22校、中学校8校、合計30校の教務主任、主幹教諭を委員とする教育課程検討委員会を開催し、児童生徒の学力や学習状況をはじめ、学校教育上の諸課題について、情報を共有し、解決に向け情報交換、研究協議を行っている。
- (2) 学習指導法の工夫・改善
 - ・研究校を計画的に委嘱し、研究を推進している。
26年度研究委嘱（1年目）……3小学校、1中学校
26年度研究発表（2年目）……4小学校、1中学校
- (3) 加須市教育研修大会で研究報告
 - ・研究委嘱校の成果を広めるため、市内全幼稚園、小・中学校の教員を集め、研究報告を行っている。
- (4) 研究集録の作成・配布（各学校の取組に生かす）
 - ・研究成果の報告
- (5) 学校訪問での支援
 - ・学校の要請による訪問、初任者対象指導主事訪問、英語教育研究員訪問

- (6) 市・県の教材の活用
 - ・加須市「ひとり学びノート」
 - ・東部教育事務所「学力向上ワークシート」等
- (7) 学力向上に関わる事業等の見直しと改善
 - ・学力アップ事業・学習指導改善研究事業・学校訪問事業 他
- (8) 全国学力・学習状況調査結果の分析、活用
 - ・全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題及び改善策を明らかにした市全体の内容及び各学校ごとの内容を公表して、説明責任を果たす。
- (9) 授業の指導方法の改善（知識や技能の定着・活用）
 - 指導主事が各学校を訪問し、各校の取組状況を把握して、学力向上策について指導を行う。
- (10) 児童生徒への個別指導の充実
 - 学習内容の習熟が十分でない児童生徒の学力向上と学力の2極化の解消を目指し、個別指導の時間をつくるよう各学校に指導する。
- (11) 家庭と連携して家庭学習の習慣化と充実
 - 「家庭学習の手引き」等を作成し、家庭学習の時間の目安や、自主学習の方法を示すことができるよう、各学校に指導する。
- (12) 教員の指導力向上
 - 各学校の校内研修に指導主事を派遣したり、教育センターで各種研修会を実施したりすることを通して、教職員の指導力の向上を図る。
 - 学校に指導方法の改善についての研究を委嘱し、その成果を研究発表会等により、市内の学校に広め、指導力向上を図る。
- (13) 加須市独自の取組
 - ・あいさつ運動（あいさつふれあい推進事業）
 - ・学校応援団の取組（いきいきステーション事業）
 - ・基礎・基本の定着についての検証テスト「学びのすすめテスト」の実施（3つの達成目標の検証として）

3 研究の成果と課題

(1) 成果

平成26年度全国学力・学習状況調査の各学校ごとの結果について、各校が分析し教育委員会が、課題や改善策をまとめ、公表した。このことにより、児童生徒の学力向上に必要な改善案が各学校において検討され、具体的な学習指導法の工夫・改善が進められている。

加須市教育課程検討委員会において、学力向上策について、協議を進め、特に、家庭学習の取組や、1時間1時間の授業を大切にすることについて共通理解が図られた。

家庭学習の手引き等を作成、配布したり、保護者に啓発を行ったりしたところ、1時間以上家庭学習をする児童、生徒が増えた。

(2) 課題

全国学力学習状況調査の正答率の分布が双峰分布を示す学力の2極化が生じており、全体的に、全国、県と比較して、学力上位者が少ない。基礎・基本の徹底を図るとともに、個に応じた指導法の工夫を図る必要がある。

中学校では、生徒に計画的に宿題や課題が課されていない学校があり、改善の余地がある。（家庭学習のシステム化、強化期間の設定、コンテストの実施、他）